



物理チャレンジ2007 ジャーナル

レゾナンス 第1号(7月30日発行)

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
広報委員会



98名のチャレンジャーが集合



2007年7月29日、物理チャレンジ2007が幕を開けた。開会式・公開講演会の会場は、つくば国際会議場。緊張して受付をすませホールに入る物理チャレンジ初参加の生徒をよそに、リピーターの生徒ははじめから和気あいあい。彼らはなぜこんなにも和気あいあいなのか？ 初参加の生徒は、もうその理由を感じ始めているはずだ。そう、普段の生活ではめったに見つけることのできない本気で切磋琢磨できる人間が、この物理チャレンジに集まっているのだ！

開幕の挨拶



北原日本委員会委員長から、これまでの物理オリンピックの説明があった。昨年のシンガポール大会は銀1と銅3、今年のイラン大会では金2、銀2、銅1のメダルを獲得。このペースでいったら、来年のベトナム大会は一体どうなってしまうのか！？君たちの活躍が大いに期待される場所である。しかし、物理オリンピックは単なる競争の場ではない。大会での国際交流が君たちの財産になることはもちろん、君たちの交流が生む友情は世界の財産になっていく。心に白地図をもって、いざ、物理チャレンジ！そして、北原委員長は高らかに開会を宣言した。

来賓ご挨拶



筑波大学の岩崎学長のご挨拶では、筑波大学(東京文理科大学、東京教育大学)と朝永振一郎博士、白川英樹博士、江崎玲於奈博士の関係が紹介された。その記録は、フィジックス・ライブが行われる総合B棟のギャラリーに展示されている。ぜひ見に行ってください。

来賓ご挨拶



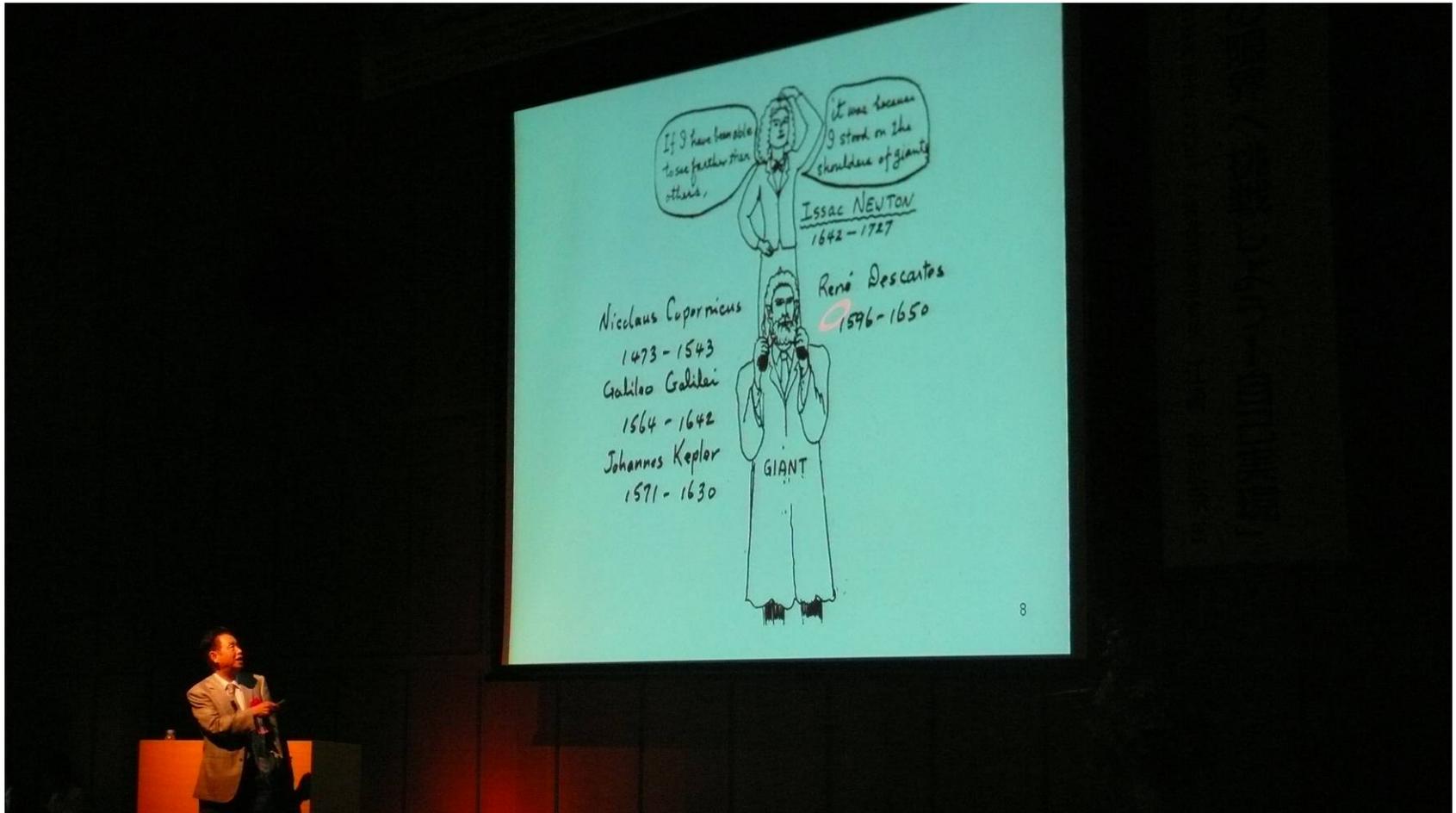
稲葉茨城県教育委員会教育長は、仁科芳雄博士ゆかりの地、岡山で行われたこれまでの物理チャレンジに言及しながら、今回の場所、研究学園都市つくばを大いにアピールした。J-PARC、JAXA、産総研、KEKには、明日以降に見学することになる。

国際物理オリンピック2007の報告



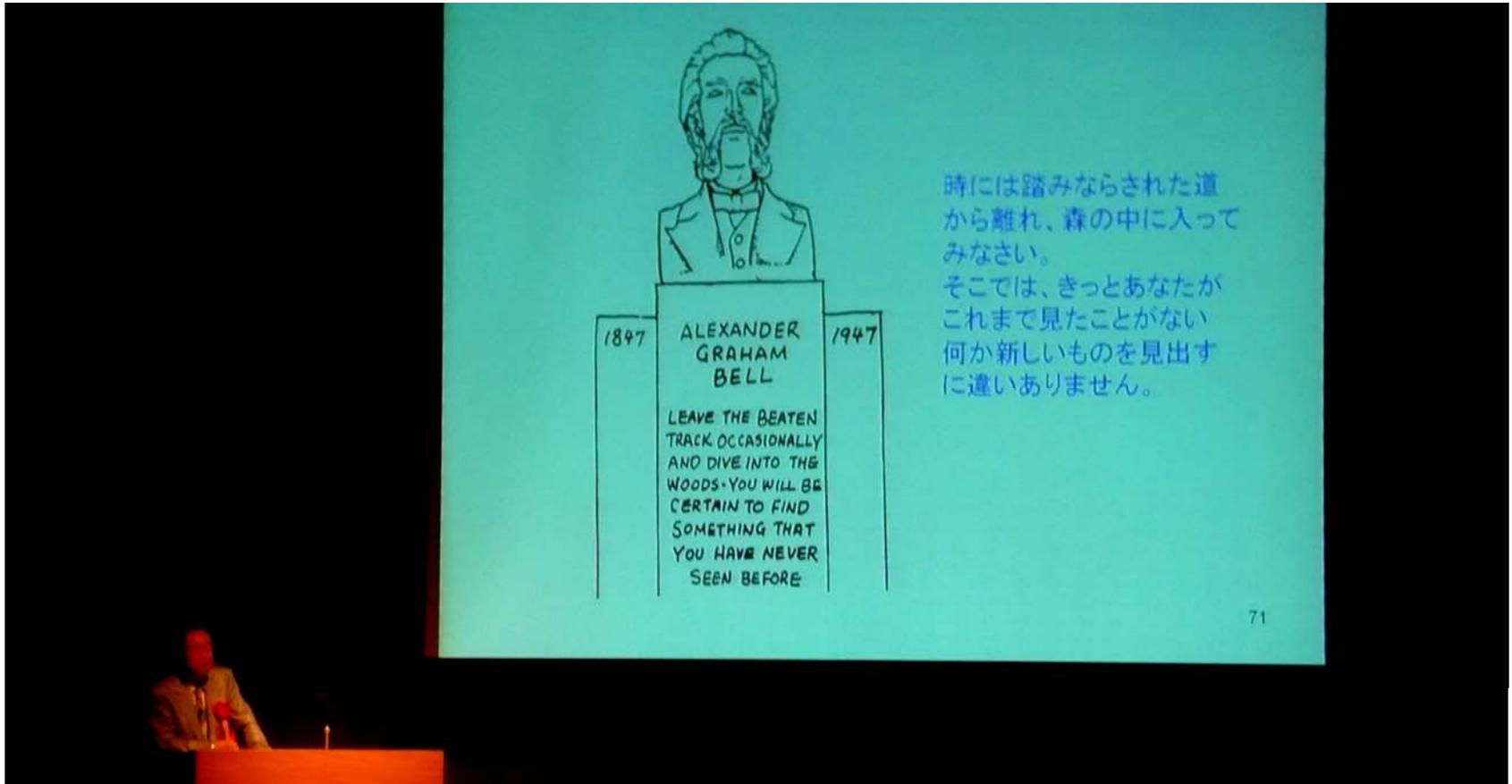
杉山オリンピック派遣委員から、イランはイスファハンで開かれた国際物理オリンピック2007の報告があった。日本代表決定からオリンピック参加までの充実したトレーニングの後、結団式を経て、代表はイランに向けて出発した。北原委員長の話にもあった白地図での国際交流、VIP待遇を受けの一団、理論問題と実験問題にチャレンジする代表の様子などが紹介された。杉山先生の報告は、君たちのチャレンジ精神を大いに刺激したことだろう。だが、挑戦者たちよ、忘れるなかれ。君たちのチャレンジの陰で、徹夜で問題の翻訳をする先生たちの努力があるのだ。

Isaac Newton の言葉



If I had seen further it is by standing on the shoulders of Giants.
(Isaac Newton)

Graham Bell の言葉



Leave the beaten track behind occasionally and drive into the wood.
You will be certain to find something that you have never seen before.

(Alexander Graham Bell)

歓迎アトラクションその1



筑波山がまの油売り口上研究会 村竹儀昭さん

いただいた「がまの油」の効能やいかに！

ところで、誰か本気で一万円札増やそうとしてませんか？

歓迎アトラクションその2



竜ヶ崎第二高等学校ダンス部の皆さん

龍宮城の乙姫のごときダンス、ミッキーとパワーレンジャーが伝統ですから、底力が違いました。

歓迎アトラクションその3



鹿島灘高等学校和太鼓部の皆さん

太鼓の音が響いたのは、空きっ腹だったからではありませんよね。音がとっても力強かったですね。

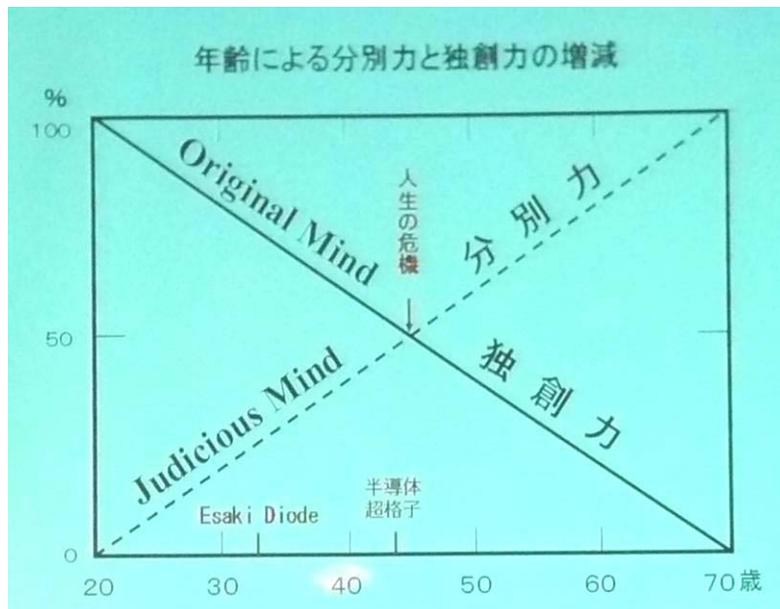
Waldemar Gorzkowski博士死去



1970年から国際物理オリンピック委員会会長の任にあった、ポーランド出身のゴルツコフスキー博士は、物理オリンピック・イラン大会の最中、天に召される。

In Waldemar we lost a great promoter of high level of physics education and wonderful friend. (IPhOゴルツコフスキー博士追悼文より)

編集後記



10代だけが持つ「特権」

江崎先生の講演で、「独創力」と「分別力」の曲線が交わるグラフを見て、指導にあたる先生たちは一様に苦笑を禁じ得なかったようだが、物理チャレンジに参加する生徒諸君は、大いに勇気づけられたかのではないか。

このグラフには描かれていないが、この独創力が伸びる時期は10代である、というのが江崎説である。

今年の1月1日付け日本経済新聞「私の履歴書(第1回)」では、

「私はかなり激動のティーンズを過ごしたが、多分、これが私の人間形成にかなりの影響を与えたのであろう。

全く親に依存する子供から、自主自律の大人になる間のティーンズをどう生きたか。

この時期に、どれだけ、もって生まれたタレントを見だし、その潜在能力を引き出すことができたか。

どれだけ創造能力を獲得し得たか、などが将来の活躍に決定的に影響を持つのである。」と述べている。

独創力を鍛えられるのは10代(のみ)。ちょうど、今のあなた方である。

このメカニズムは、現代の脳科学にあっても未だ明らかにされていないが、経験的には知られている事実である。

そして、そのチャンスは二度とめぐってこない。